

壊された

くらし

新自由主義の現場から

自公政治のもとで続く長期不況。新型コロナ禍、物価高が国民生活の悪化に拍車をかけています。新年度が始まって1カ月。4月28日、東京都台東区のアローワーク上野前で利用者に奥情を聞きました。(井上拓大、小酒井自由、武田祐一)

アローワーク前で

「清掃関係で仕事を探しています。1年以上していますが、1年以上就けていません」と話すのは同区に住む、生活保護を利用している男性(63)。「これまで4社に断られました。生活保護費が少ないので、稼働したいと思ってアローワークに来た」といいます。10年ほど前に運送業をやめたあと、仕事を転々とし、3年前に路上生活になりました。

税金使い方怒り

1年前から生活保護を利用し、現在は無料低額宿泊所で暮らしている

す。弁当の量が足りないことや共用風呂の入浴時間制限などに不満があります。「貧困ビジネス」だと思ふ。仕事が見つければアパートに移りたい」とつぶやきました。

この男性は、政府の税金の使い方に怒りを隠せません。「アベノマスクの在庫処分は何億と使うのが腹立たしい」と述べ、消費税減税を訴えました。

中央区の女性(55)は「20年以上、契約社員として働いた観光関係会社から、希望退職を勧められて退職した」といいます。

物価高く大変 ■消費税減税を

遠く希望の職



アローワーク前で記者の質問にこたえる人(手前)ら=4月28日、東京都台東区

す。新型コロナウイルス感染症拡大による業績悪化が理由です。夫が働いているので困窮してはいませんが、「生活していると思うのは消費税を下げしてほしい」といふこと。物価も高いと感じますし、このままでは本当に大変です」と話しました。

「希望の職を待たない」と話しながら、奥情を聞き出しました。「ほとんど書類選考で落とされ、面接まで行けたのは1割程度でした」。いまは雇用保険の給付金をもらい、食卓宅配サービスで食いつなぐ生活です。「給付金は期限があるので早く仕事をみつけない」と述べました。

医療事務をしていた女性(31)は「台東区は」前の職場は本当にブラックとも思いましたが、妊婦

「貯金取り崩して親の介護を機に仕事をやめた男性(45)は、フィットネスクラブで契約社員として働いてきました。手取りは月平均13万円でした。現在、雇用保険と貯金を取り崩して生活しています。男性は「個人への特別給付金がほしいです」と話しました。

貯金取り崩して

親の介護を機に仕事をやめた男性(45)は、フィットネスクラブで契約社員として働いてきました。手取りは月平均13万円でした。現在、雇用保険と貯金を取り崩して生活しています。男性は「個人への特別給付金がほしいです」と話しました。

不景気が続いている状況について

「政府の景気対策の失敗です。消費税10%で景気が下がりました。給料は上がってないのに物価は高くなる。消費税を下げるしかないと思う」と話しました。

昨年、メディア関係の会社を定年退職したという男性(61)は「貯金も少なくなるので仕事を探している。しかし、シニアの仕事はガードマンか、交通整理、清掃しかない」と肩を落としていました。